

松里公民館だより No9

令和 3年 12月

「松里の昔ばなし」

今月は松里の特産、ころ柿です。



「松里のころ柿」

松里の枯露柿は今日全国的に有名である。東山梨郡誌によって、その伝えをみると、この土地には昔からころ柿の製法が伝わっていたが、とくに武田信玄の時、元龜年間に乾柿（ほしがき）を奨励し、美濃国の良種、今でいう蜂屋柿を移植して増植につとめたのが初めであるという。その後慶長二年に浅野長政が本州に封ぜられ、土地の検地を命ずるにあたり、信玄の遺策を継いで柿の増植を奨めた。とくに不毛の土地にすべて柿の木を植えさせた。これが第二次の奨励であるという。其の後浅野長政は芸州広島の城主になるや、甲州の蜂屋柿の苗木を彼の地に移植し乾柿の製造を伝へ、同地の名産乾柿祇園坊として、各地に名を知られるようになったことが、

「芸備日記」に記されている。その後松里の乾柿は年々製造を改良し、江戸時代には年々の献上物となった。甲斐八珍果とか峡中八珍果と呼ばれ、ぶどう・なし・もも・かき・くり・りんご・ざくろ・くるみ（またはぎんなん）の中に数えられ果物が経済興隆に役立つと考えられたのは江戸時代になってからであるが、この八珍果を最初に選定したのは浅野長政ともいうが、柳沢吉保だという説もある。松里の乾柿も江戸時代は増植をかさね、文化年間より柿運上（税金の一種）として一ヶ年永八百文を納めることとなり年末年始の進物と

して必ずこの柿を用いる盛況になった。維新後は需要が減少したというが、柿の品種改良、ころ柿の製造技術の向上にとともに全国的にその名を知られる名産品となった。

ころ柿づくりが最盛期です

松里の昔ばなしでも紹介しましたが、11月に入り松里の特産であるころ柿づくりが最盛期を迎えています。11月8日には、松里中学校の二年生がころ柿の生産者のお宅を訪問し、甲州百目の収穫やかた取り・皮むきなどを体験しました。また、松里小学校では5年生が、井尻小学校では全校児童がころ柿学習やころ柿づくりを体験しました。



松里中ころ柿体験



松里小ころ柿学習



井尻小ころ柿づくり

コロナウイルスの感染に注意し生活しましょう

9月から山梨県内のコロナウイルス感染者も減少を続け、11月には感染者が0の日が続きました。このまま収束に向かっていって欲しいものです。しかし、欧州地域ではまた感染が拡大しています。地域の皆様も油断すること無く、今後もしっかりとマスク・消毒・ソーシャルディスタンス等に注意しながら生活し、コロナウイルス感染を予防しましょう。

☆公民館の使用について

○使用の1ヶ月前から1週間前まで「使用申請」を受け付けます。電話で結構ですので館長まで申し込んでください。

○感染防止対策を徹底し、安全・安心に使用してください。

・使用時間は、午前9時から午後10時までです。

・使用後は、必ず清掃・消毒をお願いします。

※12月5日（日）19：00から大掃除と避難訓練を行います。

利用団体の皆様にはお忙しいと思いますがご協力をお願いいたします。

松里公民館 館長 飯島 節生
主事 小宮山茂樹